退職にあたって思い出すことなど

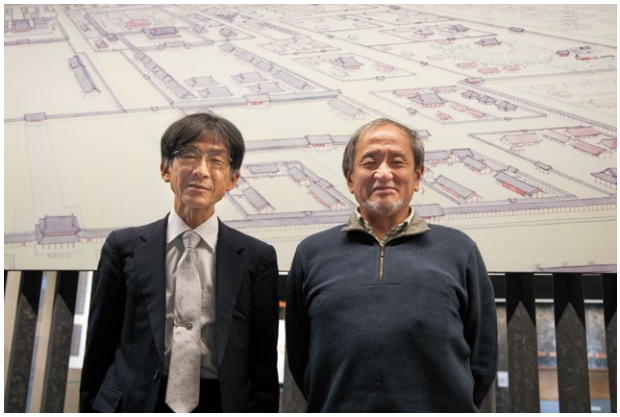
奈文研で過ごした31年間、長かったような短かったような不思議な感覚を覚えます。幸か不幸か、31年間一度の異動もなく、ずっと平城宮跡の発掘調査を担当する部署で過ごしてきました。正直言ってまだ振り返る気分でもないのですが、思い出すのは発掘現場のことばかり。

平城宮では、総担当を務めた兵部省の終局と東区朝堂院南門をはじめ、東区朝堂院第三堂、神祇官西院・東院、右馬寮、東院南門、同園池南岸建物と二条条間路北側溝、同「楼閣宮殿」、同中枢西辺、東方官衙、佐紀池南岸西大溝、西楼、称徳天皇の大嘗宮、東北官衙等。平城京内では、長屋王家木簡溝の北端、二条大路北濠状遺構、大学寮推定地、田村第、興福寺西室、同一乗院（奈良地裁）、同大乗院西小池、法華寺阿弥陀浄土院、春日東塔、西大寺食堂院など。この他小さい現場も枚挙にいとまがありません。幸運なことに、まとまった木簡の出土にも何度か立ち会うことができました。

遺構や遺物の語ることに耳を傾ける時間のなんと幸せだったことか。少なくとも研究業務面に関する限り、さしたるストレスを感じることもなく、四半世紀以上にわたって業務に携わって来られたのは、奈文研のチームワークのなせるわざ。ただただ感謝の言葉しかありません。

私たちの仕事は、まさに継続は力なりを地で行くようなものです。その意味でも次世代に無事バトンタッチできることを心から喜びたいと思います。やり残した仕事も実は多々あって、特に、掘った木簡の整理を完結できないまま退職するのは心苦しい限りです。長い間本当にありがとうございました。

（副所長・都城発掘調査部副部長　渡辺 晃宏）



渡辺副所長（左）と玉田部長（右）